

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|--------------|
| 事業所番号 | 0190502773 | | |
| 法人名 | 株式会社 創生事業団 | | |
| 事業所名 | グッドケア・中の島 (すずらん館) | | |
| 所在地 | 札幌市豊平区中の島1条3丁目7-3 | | |
| 自己評価作成日 | 令和 5年 2月 1日 | 評価結果市町村受理日 | 令和 5年 5月 10日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

| | |
|-------------|---|
| 基本情報リンク先URL | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyvoyoCd=0190502773-00&ServiceCd=320&Type=search |
|-------------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ | | |
| 所在地 | 札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103 | | |
| 訪問調査日 | 令和5年2月22日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームから最寄りの地下鉄までは徒歩5分程度でバス停も近く、駐車場もあるので家族や友人が来訪しやすい環境にある。周囲にはスーパーや神社・公園があり、コロナ禍の前は時々散歩に出かけたり神社のお祭り見物や花見に出かける等、近隣の住民と触れ合う機会があった。コロナの感染者数の状態によりご家族の面会はガラス越しや玄関、居室で短時間等、都度対応を考慮している。面会できない時には電話で話してもらうこともある。今現在は外出行事はできていないが、毎月1回以上は様々な出前を取ったり、職員が特別メニューを考え入居者の目の前で調理をしたり(お好み焼き、すき焼き等)、生活に彩を添えられるよう工夫している。家族には月1回担当者が写真入りの手紙を送付し、最近の様子を伝えている。また、毎月ユニット会議を行い、入居者の状態の変化やケアの問題点等を話し合う機会を設けている。実習生も積極的に受け入れ、歯科衛生士や保佐人の定期訪問など職員や家族以外とも関わりを持ってようになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鉄筋コンクリート3階建ての1階には創生事業団事業部が有り 2,3階に各1ユニット18人が入居し、20台程度駐車できる広さがある。創生会グループはアライアンス(企業同士の提携経営共同体)を掲げ人材育成、事業所運営、経営のノウハウを共有し、日本各地に展開している。北海道エリアでは38事業所が有り札幌では10か所以上のグループホームを運営している。コロナ禍以前は合同敬老会や、夏祭り、避難訓練、町内会行事などに参加し、良好な関係を継続しており、今後の再開を楽しみにしている。誕生会や毎月の行事では出前など好みの物を主体とした食事提供があり、おやつは毎回異なる有名店の和洋菓子、パン、季節の果物や話題の物を提供し利用者の大きな楽しみになっている。。看取りは一昨年に行っているが家族からの要望が有るときは事業所の看取り内容を説明し都度同意を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|--|-----------------------|---|---|-----------------------|---|
| | | | | | |
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価及び外部評価結果

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|------|--|---|---|-------------------------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | グッドケア・中の島理念として「地域にとけこみ、いつまでも笑顔あふれるあたたかい暮らしを送って頂けるよう努めます」と掲げ、スタッフルームの目につくところに掲示し、折に触れ確認するようにしている。 | 職員全員で作成した2つの事業所理念(ケアサービス、地域密着型)の書面を2階,3階のスタッフルームに掲示し日々のケアに繋げるよう取り組んでいる。 | 毎月のスタッフ会議で理念の唱和をして職員間で共有することを期待したい。 |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している | コロナ禍なので現在はできていないが、以前は町内のゴミ拾いや花植え、公園の草取りや清掃等に入居者と共に参加し、ホームの避難訓練に町内の方にも参加してもらうことで、顔なじみになり地域の一員として関係性を作っている。 | コロナ禍後の町内会行事である合同敬老会を含め交流を期待している。恒例となっている中学生によるインターシップの再開や本年度実施の専門学校実習生の受け入れを継続している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議や避難訓練、町内行事等で入居者と触れ合う機会を作り、認知症の方について知ってもらい日常どんな援助が必要なのか身近に感じてもらっている。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月の活動報告や外部評価の結果、ホーム内の状況や出来事を報告している。その内容は議事録にまとめ、参加していないご家族にも送付し、情報共有している。面会の際等、折に触れ意見がないか伺っている。 | 書面会議は毎回出席職員を変えるなどして2か月毎に開催している。運営や事故報告、予防接種情報、行事、避難訓練実施等を報告し、議事録は事業所内に掲示すると共に利用者家族に郵送している。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | コロナ禍なので現在は参加をお願いできないが、運営推進会議では地域包括支援センターの職員に参加してもらい、ホームのケアや取り組みを伝えていた。生活保護の方については保護課の担当者に報告や相談もしている。 | 介護保険課とは更新手続等について密に連絡を取っている。生活保護担当者は訪問して新規の生活保護利用者と面談をしている。職員は毎月空室情報等の提供をしている。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 3か月に1度、身体拘束適正化委員会を開催し、身体拘束を行うことがないよう日々のケアやグレーゾーンの見直しを行っている。併せて年に2回、身体拘束適正化研修も行い職員全員で身体拘束防止に取り組んでいる。身体拘束の11項目をスタッフルームに掲げ、目に触れるようにしている。 | 3か月毎の身体拘束等適正化委員会と毎月開催の身体拘束廃止委員会の議事録を職員に回覧し、ケアに反映させている。手すりや家族の同意を得て転倒予防にセンサーを使用している。行動抑制等の不適切な言葉を使わないケアを実践し、外出は職員全員で見守り1階玄関はオートロックを使用している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | 毎年何名かずつ順番に北海道高齢者虐待防止推進研修会を受講し、新たに学んでいる。そして受講した職員が他の職員に伝達研修を行い、全員に周知できるようにしている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 高齢者の権利擁護研修に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学んでいる。必要時には家族や保護課担当者等と相談し対応している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に重要な部分は特に時間をかけて読み上げ説明し、随時わからないことは質問してもらっている。又、改定がある場合は文書と口頭で説明し理解を得られるよう努めている。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者や家族の要望はその都度聞き、ケアプランに取り入れている。契約時に苦情申し立て機関の周知も行い、職員に言いづらい場合はそちらに連絡できるよう案内している。 | 家族からの要望意見は電話や面会時に聞いている。利用者とは日々の関わりから把握するように努め業務日誌で共有し、要望意見を推進会議で協議しケアに反映させている。 | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ユニット会議や運営推進会議・職員間の連絡帳等から職員の意見を集約し、管理者は月に1回の管理者会議で会社側に伝えている。 | 管理者は職員が日常いつでも意見や提案、気付きの話ができるよう考慮している。職員の提案で支援の時間帯や配置人員の変更を取り入れている。考課表作成時に職員の要望を聞き取り本部へ報告している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 給与は年俸制になっており、前年度の勤務姿勢や実績が反映される。また、自己評価を行い更に管理者からの評価と比べることによって、本人の状態を把握できるようになっている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 勤務の一環として社内研修や外部研修を奨励し、休み以外でも研修に参加できるような体制にしている。特に北海道高齢者虐待防止推進研修会や、社会福祉施設等防火・救命実務研修会は毎年受講するようになっている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナ禍なので現在はできていないが、以前は札幌市や豊平区の管理者会議の参加や、豊平区在宅ケア連絡会・豊平区ケアマネジャー研修会等に参加することにより、同業者との情報交換や協力体制を作っていた。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に面談を行い、どのような支援を望まれているかをお聞きしている。入居後は交流を通して信頼関係の構築に努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 契約時に支援内容の要望をお聞きし、入居後はご家族の来訪時や、電話連絡時等にご本人の日々の様子をお伝えし、ご家族の意見を伺い信頼関係の構築に努めている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人とご家族の要望を最大限考慮し、本当に必要な支援内容を色々なサービスを含めて検討し、提供できるよう努めている。 | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご本人の状態に合わせ、自身の居室やホールの清掃、洗濯物干しをしたり、食器拭きを行う等できる範囲で職員とも協力し合いながら行っている。 | | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 日常生活の様子を常にご家族に報告と相談を怠らず、現在の支援内容の要望の把握を行い緊密な関係の構築の維持に努めている。 | | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 現在は新型コロナウイルスの影響で各居室でお互いにマスクをつけ、15分以内の面会をお願いしている。またご家族に電話連絡の際にはご本人に電話にて会話してもらっている。 | 2か月毎に訪問理美容を利用している。面会制限等は法人の意向に基づき行っている。予約の上で玄関や窓越し、ベランダ越しでの顔合わせ、携帯電話等を利用した面会を状況に合わせて出来る様工夫している。日帰り外出は条件付きで支援をしている。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日々の日常で一緒に体操やドリルを行っていたり、一緒に歌のDVDを視聴し会話してもらったり、月に1回程度行事を楽しんでもらい、入居者さん同士の交流の場を設けるよう努めている。 | | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了後も必要に応じて相談や要望に対応できるよう配慮し努めている。 | | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常生活の中で交流を大切に、その中で個々の思いや希望を汲み取るよう努めている。言語表現が難しい場合は、表情や動作などから意向を把握できるよう努めている。 | 利用者との日々の会話、動作、表情及び行事、入浴時などから思いや意向を把握し、職員間で共有している。意思疎通が困難な入居者には職員で推察したり、家族から情報を得ている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | センター方式を活用するとともに本人や家族からの話を聞き、加えて普段から交流を深めることで、個々の生活歴などをより理解できるよう努めている。 | | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ケース記録にその日の様子や状況を詳しく記載し、心身状態の把握に努めている。また脳トレや体操、立位や歩行など個々の力量や残存能力も含め、一日一日の状態を職員同士が把握ができるよう努めている。 | | | |

グッドケア・中の島（すずらん館）

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人や家族の意向や希望を取り入れるとともに、職員全員の意見を考慮しカンファレンスを行っている。介護計画書作成後は、本人と家族に説明をし確認している。次回更新時までには状態の変化が生じた場合は、その都度介護計画の見直しを行っている。 | 職員の意見、医療関係者、介護記録、利用者や家族の意向を反映させた短期6カ月、長期1年の計画書を作成し家族に説明して同意を得ている。状況変化時には都度見直している。新規入居者は2～3か月の計画書を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別のケース記録に様子や状況を記入し、日中、夜間の特記事項は業務日報に記載している。日々職員間で情報を共有し理解を深めた上で、介護計画や実践に活かせるよう努めている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 家族の状況や希望により、必要に応じて入居者の買い物を職員が代行している。基本的に救急搬送や病院受診は家族対応となるが、状況により職員が対応することもある。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 中学校の職場体験の受け入れや町内会の清掃や花壇の花植えや中の島神社のお祭りに参加し交流を図っていたが、コロナの影響で中止になっている。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 訪問診療を利用できるが、希望があれば元々のかかりつけ医の受診継続もできる。歯科の訪問診療も受けられる。個別に医療記録を作り職員全員で情報の共有をしている。 | 従来からのかかりつけ医や専門医への同行支援は要望の際に支援している。協力医は2週毎の訪問診療、看護師は週1回の健康管理、歯科医は随時、往診や治療を行っている。投薬は利用者毎に一包化し適切に保管している。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週に1回訪問看護があり、入居者の状況や変化を伝えて相談している。薬の変更があった場合も伝え情報を共有している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院した場合、ホームでの生活状況、排泄、食事、入浴などの介助状況を伝えている。入院中の状態退院の目的を確認相談し、病院との連携に努めている。また治療に専念できるよう3か月以内であればホームに戻る体制を有している。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合の対応に係る指針について説明し、確認捺印を得ている。状況の変化がある場合も改めて確認をする。看取りを希望する場合は訪問診療医を交え家族や職員と話し合いを行う。 | 入居時に書面で「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し同意を得ている。事業者と家族は重度化のときは早い段階で主治医と協議している。看取り要望が有るときは主治医の指導のもと利用者及び家族の要望に沿うよう支援している。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 順々に社会福祉施設等防火・救命研修会に参加し、応急手当やAEDの使用方法などを学んでいる。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | コロナ禍なので、地域住民や消防に参加は願いが出来ませんが、火災、水害を想定した避難訓練を行っている。非常用品を備蓄リストを作成し、定期的に点検確認している。カセットガス暖房を用意している。 | 年2回の昼夜間想定火災避難訓練及び自然災害避難訓練1回を実施している。介護保険課主催の避難確保計画作成に参加した内容を次の訓練に繋げるようにしている。3日分の備蓄品を備えている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | その人の性格を理解し時間帯や日課を見ながら声かけを行っている。服薬やトイレ誘導など拒否があれば無理をせず、時間を置いて再度声かけをしている。 | 排泄や入浴、食事誘導時の言葉使いに配慮し、行動抑制や不適切な言葉使いに職員間で都度注意合っている。個人情報や写真掲載の扱いは入居時に説明し、書類は適切に保管している。居室は内部から施錠が出来る。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 食事が進まない時はその人が食べたいもの、行事などを開催する時は事前に希望のメニューを聞き、選択して食べる喜びを提供している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入浴の順番でも気分がのらない日は無理強いせず、日程を変える等している。一人一人の趣味を理解し、音楽の提供や運動の声かけをしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 入浴後に着る服を選択してもらったり、洗面用具を用意し自身で髪を梳いてもらう、電気カミソリで髭をそってもらう等それぞれのできる範囲で身だしなみを整えられるよう支援している。 | | |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | コロナ禍や能力的に難しいが、ホワイトボードにメニューを書いてもらったり、食器を拭いてもらうなどできる力を見てお手伝いをお願いしている。 | 2日毎に食材は業者が納品し、湯煎や利用者に合わせての形状、ミキサー食、汁物は職員が調理している。誕生会等の行事食では出前すし、ケーキ、中華料理で祝っている。おやつは果物や洋菓子、和菓子、パンなどの有名店の品を提供している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量や水分量を記録につけ把握し、少ない場合は本人が摂取しやすい食べ物や飲み物を提供している。また状態によっておかずを刻んだり、スプーンや軽い食器で提供する等工夫をしている。 | | |

グッドケア・中の島（すずらん館）

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 本人の状態に応じて義歯洗浄の介助や、うがいの声かけを行なっている。歯科衛生士や歯科医の指示を参考にし、必要時は仕上げ磨きを行っている。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | ご本人の残存能力を鑑みて、トイレ誘導を行っている。食事後や就寝前など定期的な声かけをし、排泄パターンの把握をするよう努めている。 | 排泄表で把握し声掛けと時間誘導のほか表情や態度を見逃さないように努めトイレでの自立排泄を支援している。利用者の状況に合わせてリハパン、パッドなどを使い分けしている。夜間は同意を得てセンサーを使用している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | コーヒーにオリゴ糖を入れたり、毎日朝食前に牛乳を提供して腸内環境を整えることに気を配っている。また、毎身体操やパワートレーナー使用の声かけをするなど個々の状態に応じた運動を勧めている。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 個々の状態に合わせて入浴の声かけと介助を行っている。一人で入浴希望の方にはこまめに声かけをし安全確認を行っている。気が向かない時は順番を変える等、本人の意向を尊重している。 | 週2回の入浴で午前中を基本とし、利用者の状況により2人介助、同性介助、シャワー浴や清拭等の要望に添うよう配慮している。浴槽浴室は都度清掃し清潔さを保持し、マットは都度取り替えている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中は運動を取り入れ活動的に過ごしてもらい、夜間はしっかりと眠られるように支援している。21時消灯に向けて就寝介助や声かけを行っている。就寝までは希望に合わせてソファでTVを視聴するなどして過ごしてもらっている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬が変更になった場合は医療記録に記入し、各自確認している。薬チェック表に数や服薬のタイミング明記し、現状把握に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個々の能力に合わせ、クイックルワイパーがけや食器拭き、音楽鑑賞など幅広く趣味や家事の取り組みをしている。パズルや脳トレの提供も行っている。 | | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナウイルスの影響もあり外出は難しい状態だが、ご家族とお正月を過ごすため家族の送り迎えで外出できた方もいた。 | 運動不足による体力低下予防の為に振動器具(ブルブルマシン)の使用や室内ゲーム、体操、合唱などで体を動かすことに配慮している。条件付きでの日帰り帰宅支援を行っている。 | |

グッドケア・中の島（すずらん館）

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご家族や本人の希望により少額のお金を持つ人もいますがコロナの影響により買い物などには出かけられていない。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族、本人の希望で携帯電話の操作が難しい方はお預かりして電話の取次ぎをしている。手紙を預かりポストへの投函をしている。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節に応じた飾りつけをして季節を感じやすい空間づくりに努力している。また、各居室の温度管理に気を配っている。 | 居間兼食堂は一体型で広く明るい。テーブルやイスの配置も安全面に考慮されている。TVやDVD鑑賞、体操、合唱、室内ゲーム、カルタなどで楽しんでいる。温水暖房、エアコン、加湿器で温、湿度調整や窓換気を行っている。壁には季節毎のイベントに合わせた飾りつけなどを行っている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 本人の好みに合った音楽を流したり、食席を相性のいい方と配置したり、本や新聞を勧めるなど支援している。ソファで外を眺めたりひなたぼっこをしたり、時に横になったりしている方もいる。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には本人・家族の希望に沿った使い慣れた家具を配置し、写真や小物などを飾り付けたりしている。 | 居室は6畳程度の広さが有りクローゼット、パネル暖房が設置され使い慣れたベッドや整理タンス、椅子、テレビ、仏壇、写真等好みの物を持ち込んでいる。扉は内部施錠も可能である。清掃のときは利用者と一緒にを行う時がある。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレや廊下には手すりがあり安全な歩行に努めている。トイレの戸には大きくトイレと書いた紙を貼り、分かりやすく表示している。居室が分からない方は家族の了承を得て、居室の戸に名前を貼るなど自立を促している。 | | |